

氏名 村上正人
授与した学位 博士
専攻分野の名称 医学
学位授与番号 博甲第 4253 号
学位授与の日付 平成22年12月31日
学位授与の要件 医歯薬学総合研究科生体制御科学専攻
(学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目 Efficacy of Low-Dose Bepridil for Prevention of Ventricular Fibrillation in Patients With Brugada Syndrome With and Without *SCN5A* Mutation
(Brugada症候群における低容量ベプリジルの心室細動抑制効果についての*SCN5A*遺伝子変異の有無による検討)

論文審査委員 教授 佐野俊二 教授 成瀬恵治 准教授 高橋英夫

学位論文内容の要旨

Brugada症候群においてベプリジルの心室細動抑制効果は報告されているが、不明な点が多い。そこで我々は*SCN5A*遺伝子変異の有無による低容量ベプリジル(100mg/日)のその効果の違いについて検討した。

心室細動が頻発する7人の患者(3人は*SCN5A*遺伝子変異陽性、4人は*SCN5A*遺伝子変異陰性)に対し、低容量ベプリジルを投与し、心室細動抑制効果、心電図の変化、加算平均心電図の変化について検討した。

SCN5A(+)の3人においては、低容量ベプリジルは有意な心室細動抑制効果を認めた(投与前 0.33、投与後 0.02 心室細動回数/月 $P < 0.01$)。しかし*SCN5A*(-)の4人においては、低容量ベプリジルは無効であった(投与前 0.43、投与後 2.94 心室細動回数/月 $P = \text{NS}$)。*SCN5A*(+)では心電図でJ点が低下する傾向を認め、加算平均心電図では特にLAS₄₀の有意な改善を認めたが、*SCN5A*(-)においてはそのような改善は認めなかった。

低容量ベプリジルは*SCN5A*遺伝子変異陽性患者においてのみ心室細動抑制効果を認め、心電図、加算平均心電図を改善する。

論文審査結果の要旨

Brugada症候群において、ベプリジルの心室細動抑制効果は報告されているが、不明な点が多い。

本研究は、*SCN5A*遺伝子変異の有無による低容量ベプリジルの効果の違いについて検討したものである。低容量ベプリジルは*SCN5A*(+)の患者において有意な心室細動抑制効果を認めたが、*SCN5A*(-)の患者においては無効であるか、むしろ悪化させる可能性を持っているという新しい知見を得た貴重な論文であり、価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。